

第14回熊本県小学生学年別柔道大会に関わる 感染防止ガイドライン

1、入場者の条件

- ① 大会当日、会場に入場する監督・コーチ・選手は健康記録表及び名簿を大会受付に提出し検温を行ってから入場する。
- ② 大会役員・審判・報道・取材関係者・補助員は氏名及び検温結果を記入する。
- ③ 有観客の場合、大会当日入場する保護者は、道場・クラブの所属団体毎に受付にて名簿を提出し検温を行ってから入場する。
- ④ 観戦する場合は拍手での応援とし、大声を出したり、メガホン等を使用した応援は禁止とする。観客席での飲食については制限しないが飲食中の会話は行わないこと。

2、体調管理

- ① 選手は、大会開催7日前(4月9日)から検温し健康チェックシートに記入の上、大会本部に提出する。
- ② 役員・審判・補助員・取材者は、大会当日の体温を測定し、健康チェックシートに記入の上、大会本部に提出する。
- ③ 大会当日までに下記の表のように37.0℃以上の発熱があったり、極度の咳、倦怠感などの症状があった者については大会への参加を見送り、会場への入場を制限する。

	7日目	...	4日目	3日目	2日目	1日目	当日
							入場日 (試合・計量日)
入場不可条件	✖2日以上発熱 ^{注1} ・諸症状あり			✖1日でも発熱 ^{注2} ・諸症状あり			
	✖健康記録表や同意書など大会が必要とした書類を提出しない						

注1)発熱の基準は、37.0度以上とする。ただし、平熱が37度前後の場合は、平熱+0.5度までは参加を認める。平熱は直前2週間の平均値とする。

3、マスクの着用

- ① すべての入場者はマスクを着用する。マスクを着用しない者の入場は認めない。
- ② 選手は競技中以外はアップ時でもマスクを着用する。
- ③ 大会役員・審判・補助員・取材者は常時マスクの着用を義務づける。
ただし、試合時に、審判員が試合場へ上がる時はマスクを外しても良い。
- ④ 選手が報道陣の取材を受ける際、写真撮影時に限ってはマスクを外すことを認める。

4、社会的距離の確保

- ① 選手は、競技中を除き、他の選手・指導者・審判・補助員等と社会的距離を確保するように努める。
- ② ミーティングなどは密集にならないように配慮し、短時間で済ませる。
- ③ 保護者は基本、観客席の所定の位置で応援し、観客席以外の場所には立ち入らない。
- ③ 選手の更衣は指定場所で行い、会場の更衣スペースの使用は禁止とする。
- ④ 会場外のフロア・休憩スペース・駐車場等での会話は出来るだけ慎む。

5、消毒・衛生管理

- ① すべての入場者はこまめな手洗い・手指消毒・うがいなどを励行する。
- ② 主催者は、会場入り口や試合会場に消毒液を設置する。
- ③ 畳、施設や用具は適宜消毒および換気を行います。
- ④ 水分補給は各自で準備するようにして、コップを共用する回し飲みは行わない。
- ⑤ 使用した机・椅子・掲示板などは、大会終了後に消毒液を浸した布巾やペーパータオルなどで拭く。
- ⑥ ゴミは各自ですべて持ち帰る。撤収後に館内を確認し、残っていた場合は道場・クラブの監督に戻ってもらい撤去をして頂く。

6、感染報告

- ① 大会出場日を0日として7日目(4月23日)までに、感染が生じた場合は感染状況報告書(別紙様式)により報告を行うこと

【報告先】 〒860-0842 熊本市中央区南千反畑町11-12 ハクベリーズ南千反2F
(公社)熊本県柔道整復師会 実行委員長 今村 貴弘
メール kumajyusei@mx22.tiki.ne.jp

【提出方法】 メールまたは郵送

7、その他

- ① すべての入場者はマスクを着用が原則。
- ② 選手は大会出場に関する同意書を監督に提出し、監督が管理する。また監督は証明書を大会本部に提出する。
- ③ 大会前に関係者(選手・指導者・役員)から感染者または濃厚接触者が発生した場合、主催者は全柔連指針Ver.6.1以降最新のものを適用し対応する。
- ④ 新型コロナウイルス感染状況により突然の大会中止又は内容を変更する場合があります。

徹底した感染防止対策を行っていく様に致しますが、その上で感染者が発生した場合は自己責任とさせて頂き、(公社)熊本県柔道整復師会・県柔道協会・少年柔道場連盟は責任は負いませんのでご了承下さい。